

This is a story from long, long time ago originated in far northern country.

In this country, the days without rain had been continuing past several months. So people who lived there was having a very hard time.

Natalie lived with her sick mother in a small village in that country.

"I am very thirsty. Water... I want some water",

Natalie's mother gasped lying on the bed.

"Okay mum, could you wait a little? I will bring you some water."

The water at her house had ran out so she left the house to look for water with one wooden ladle.



5

Natalie walked through the forest for hours and hours, looking for some water. But unfortunately, she could not find any.

Natalie was exhausted from walking very long time so she sat on a tree stump to rest.

The sky above her was so dark, like it had been painted with black paint. Natalie saw small stars twinkling very brightly with golden rays.

Natalie was gazing into the beautiful sky for a little moment.

“Let’s go… I have to find some water sooner”,

Natalie stood up with a wooden ladle in her hand.

And then…



むかし むかし、とおい きたの くにの おはなしです。

この くにでは、ここ すうかげつ
あめの ふらない ひが つづき、
ひとびとは みな とても こまっていました。

ナタリーは、そんな くにの ある ちいさな むらで、
びょうきの ははおやと ふたりで くらしていました。

「ああ、のどが かわいた。みずが、みずが のみたい・・・」

ははおやが ベッドに よこになり、
くるしそうに いいました。

「わかった。おかあさん、すこしだけ まっていてね。
かならず みずを もってくるから」

いえに みずは もうなくなっていたので、
ナタリーは きのひしゃくを いっぱんだけ もって、
みずを さがしに かけました。



ナタリーは なんじかんも、みずを さがして
もりの なかを あるきまわりましたが、
いつてきの みずも みつかりませんでした。

つかれた ナタリーは、きりかぶに こしを おろし、
ひとやすみしていました。

ふと そらを みあげると、
くろい えのぐで ぬりつぶしたような そらには、
きんいろの ちいさな ほしが、
きらきらと ひかっていました。

ナタリーは ほんのすこしの あいだだけ、
その うつくしさに みとれていました。

「・・・さあ、いきましょう。
はやく おみずを みつけないと」

ナタリーは、ひしゃくを てに たちあがりました。
すると。

